

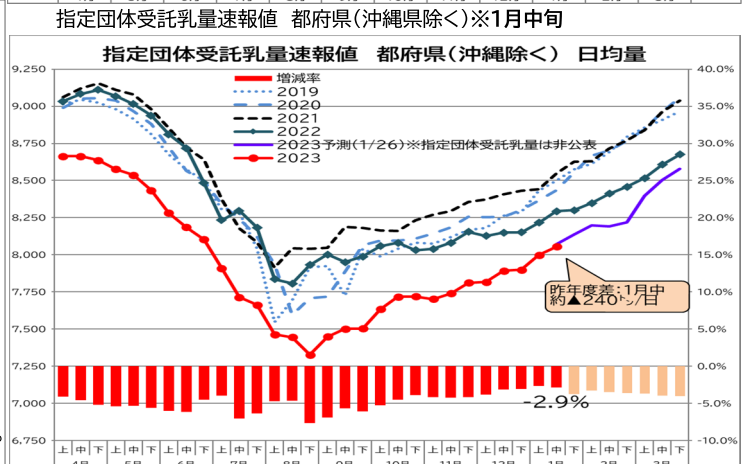
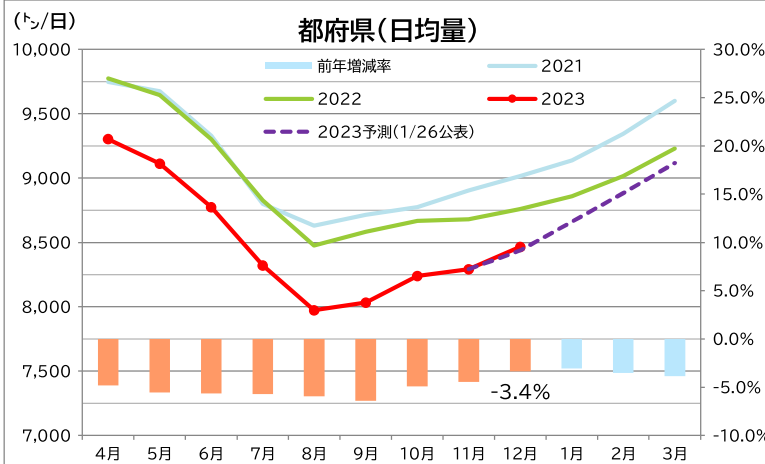
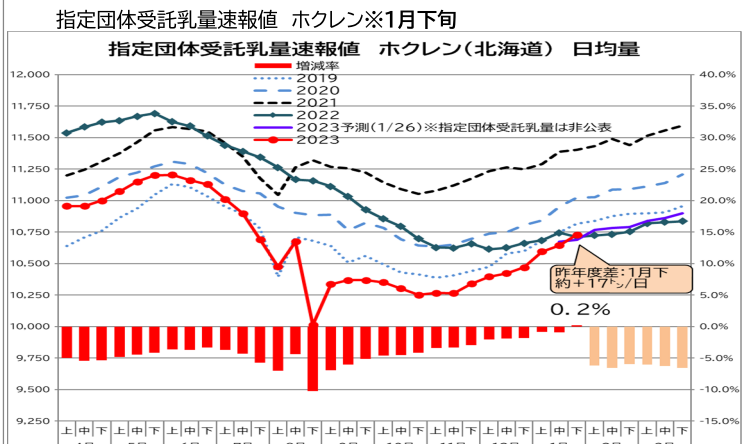
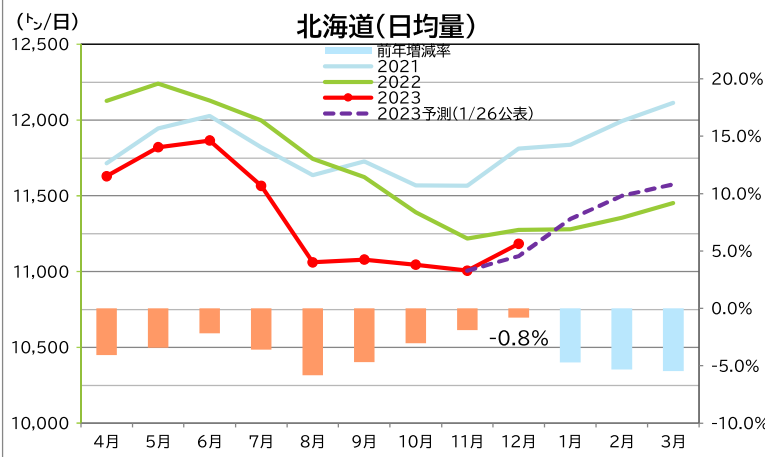
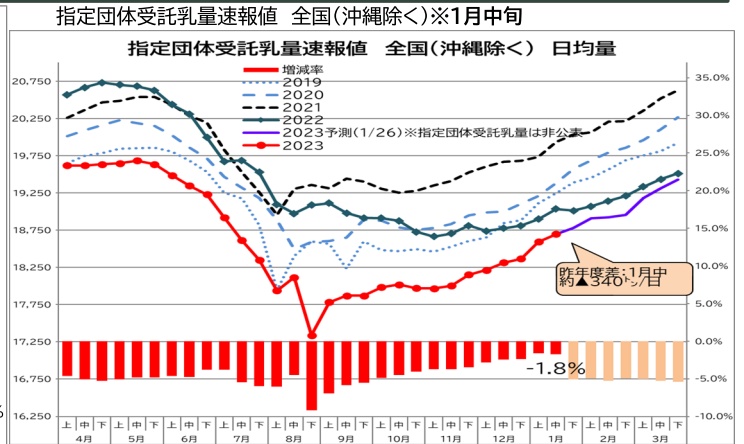
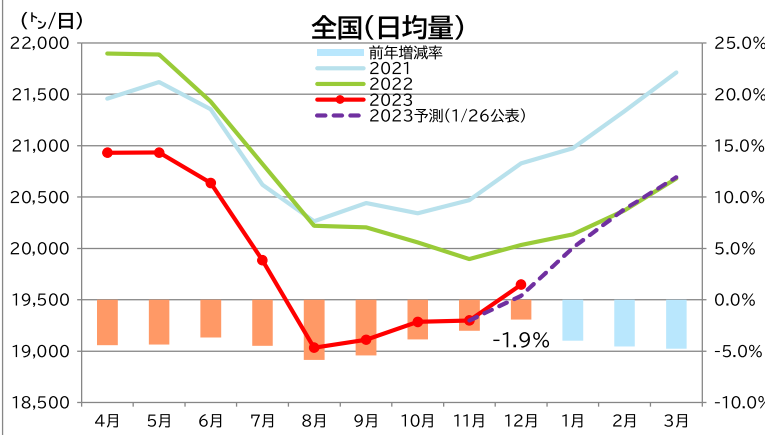
お知らせ:次回発信日は2月15日週報(予定)

Jミルクが2024年1月26日に公表した「需給見通し(※2023年11月迄実績)」の予測値と実績(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。
「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。 発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

- ・12月の生乳需給実績について、これまでの傾向と大きな変化はなく飲用等向は前年を下回る▲1.9%となった。一方、生乳生産量は前月から減少幅が縮小して▲1.9%となり、これに伴い乳製品向も▲1.9%と減少幅を縮小した。全国指定団体受託乳量(速報)では、生産抑制の効果により前年下期から生産量が大きく減少した反動や今年度の粗飼料の出来等によって、1月中旬(最新)は全国で▲1.8%と今年度最も減少率が小さくなった。特に、北海道(ホクレン)では1月下旬に+0.2%となり2022年8月上旬以来、約一年半ぶりに前年を上回った。
- ・脱脂粉乳の需給をめぐっては、全国協調の在庫削減対策が出回りを一定程度押し上げたものの、生産量も増加したため12月の在庫量は前月からほぼ横ばいで推移した。一方、バターの需給は出回りが生産量を上回ったため、在庫量は前月から減少している。今後も、国内旅行者やインバウンドの回復等により業務用を中心とした需要は堅調に推移すると予測される一方、12月の取引乳価引き上げに伴う製品価格改定が順次進むことから、今後の消費動向に注視しつつ安定的な製品供給に努める必要がある。
- ・牛乳類の販売動向に目を向けると、昨年7月時点の販売単価との価格差が比較的小さい加工乳の販売個数が増加傾向で推移していたが、直近(1/29週)は4週間ぶりに前年を下回った。牛乳類全体の販売個数は、ほぼ横ばいで推移している。
- ・年末年始は、業界内外で進める消費拡大に取り組みつつ乳製品処理や需給調整体制の事前準備などが奏功し、全国的な需給調整で大きな混乱があったとの情報は入っていない。今後は、年度末に再び厳しい需給緩和が想定されるため、引き続き業界内外で一丸となった消費拡大や理解醸成活動、需給調整体制の事前準備等、需給の混乱回避に向けた取り組みを進める必要がある。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1)12月の生乳生産量は、全国609.1千ト(前年同月比98.1%)、北海道346.7千ト(同99.2%)、都府県262.4千ト(同96.6%)。
- (2)Jミルク予測値(全国605.0千ト、北海道344.2千ト、都府県261.5千ト)との比較は、北海道が上振れ、都府県がやや上振れしたことで、全国でも上振れとなった。
- (3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が1月中旬で同98.2%、都府県(沖縄除く)が同97.1%、北海道は1月下旬で同100.2%となった。

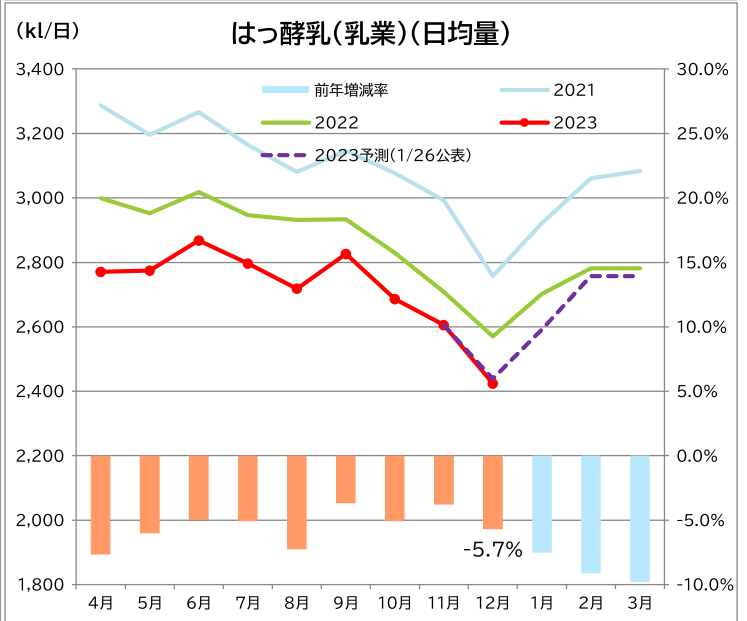
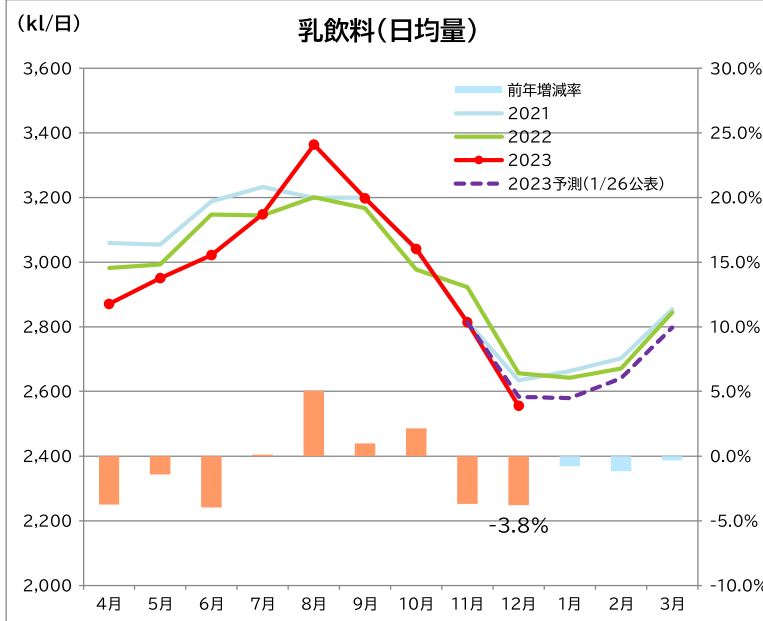
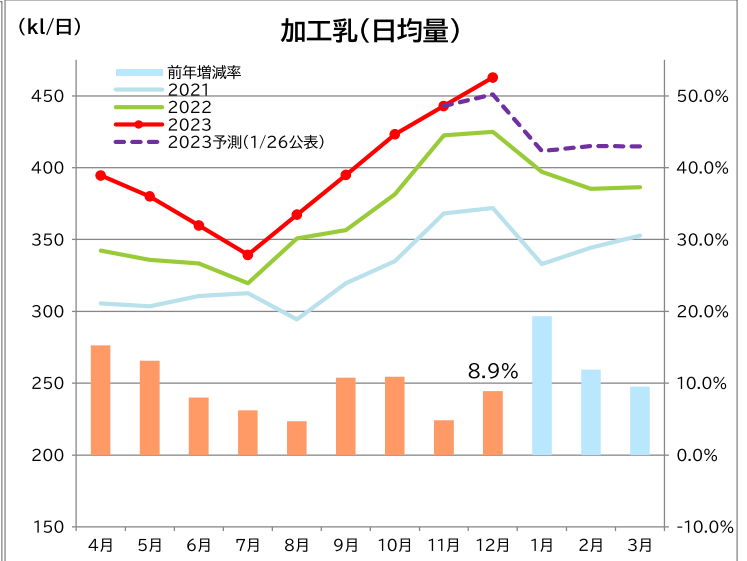
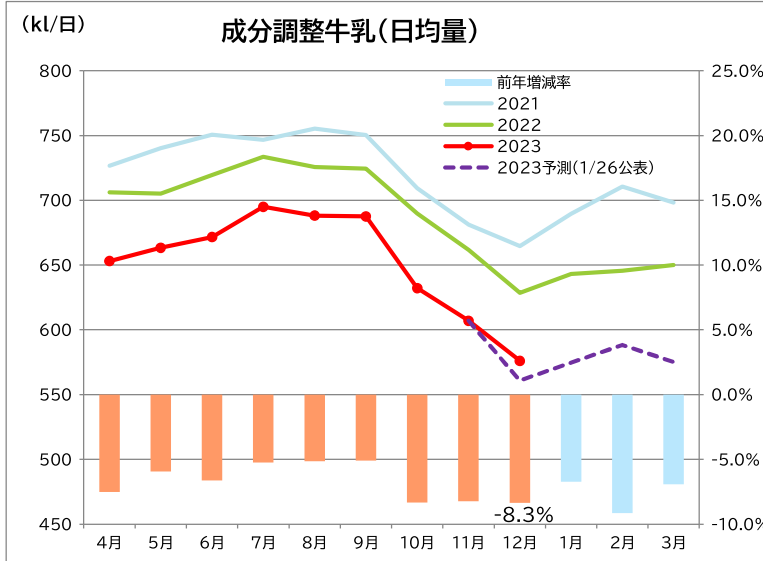
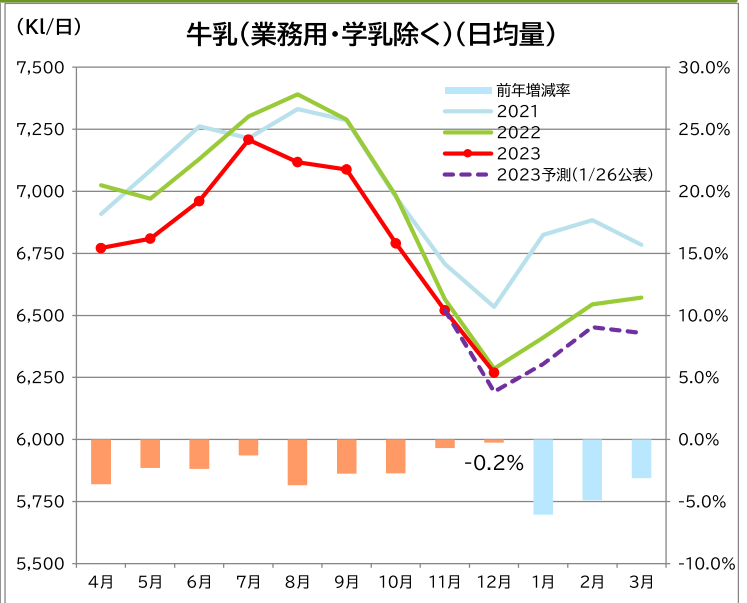
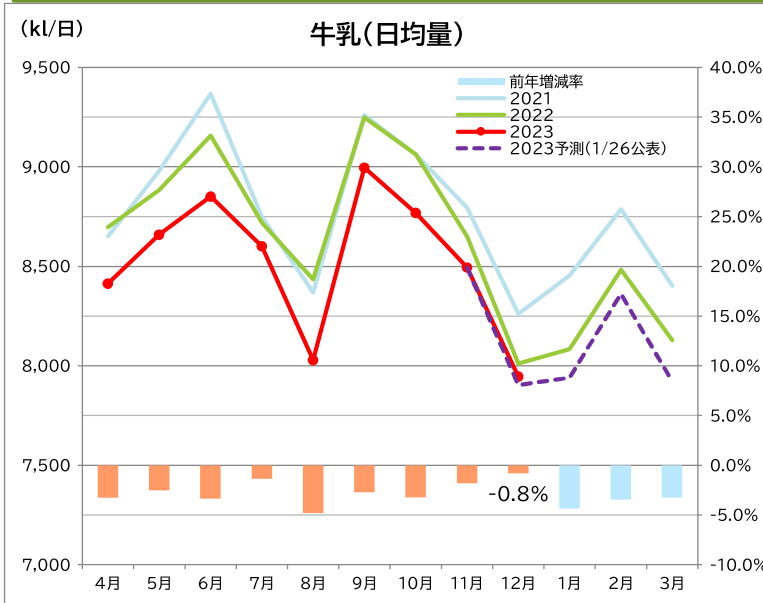


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の牛乳等生産量は、牛乳246.3千kl(前年同月比99.2%)、成分調整牛乳17.9千kl(同91.7%)、加工乳14.3千kl(同108.9%)、乳飲料79.2千kl(同96.2%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、357.7千kl(同98.5%)となり、13ヶ月連続で前年を下回っている。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同99.8%、「業務用」は同99.9%、「学乳」は94.6%。

(3)はっ酵乳(乳業)は75.1千kl(同94.3%)と前年を大きく下回って推移している。はっ酵乳(非乳業:11月実績)は102.0%となった。

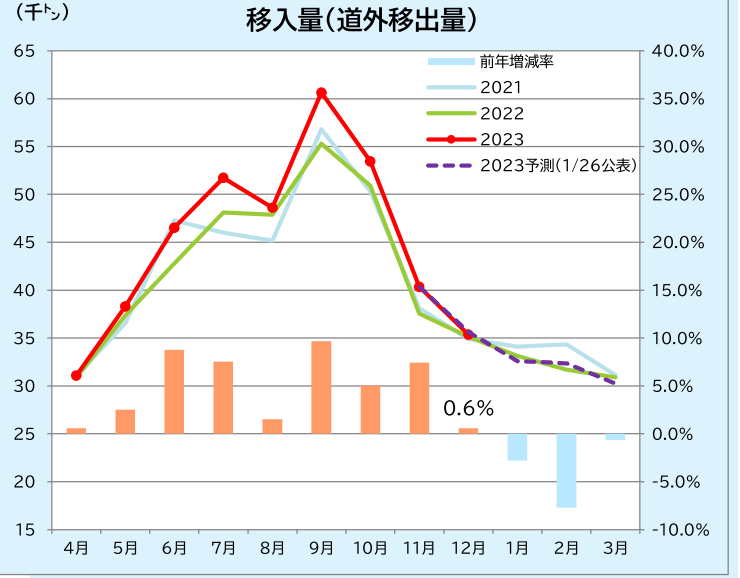
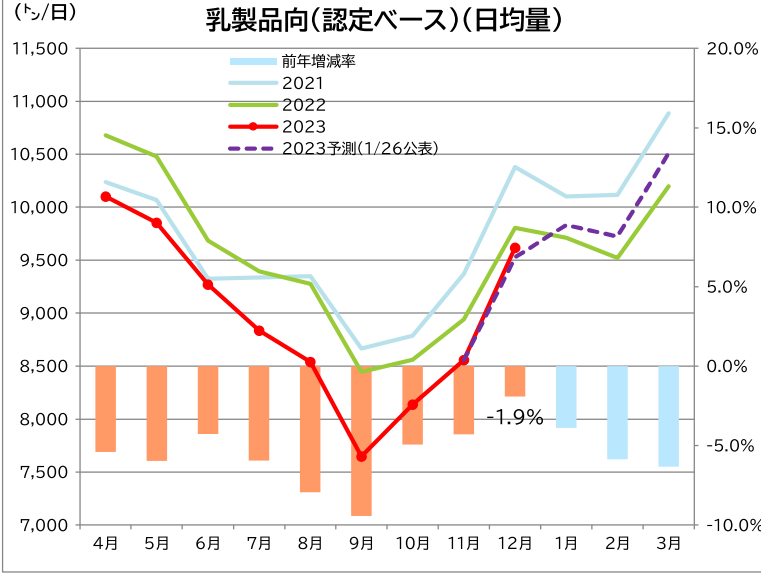
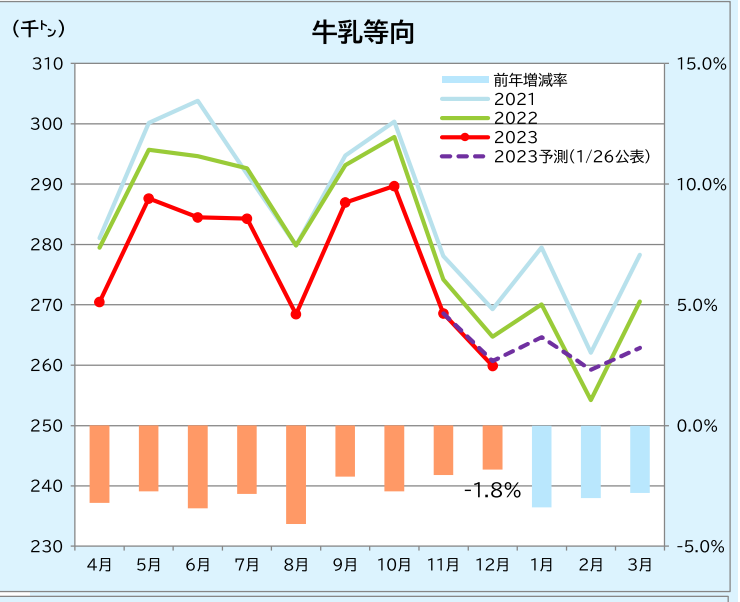
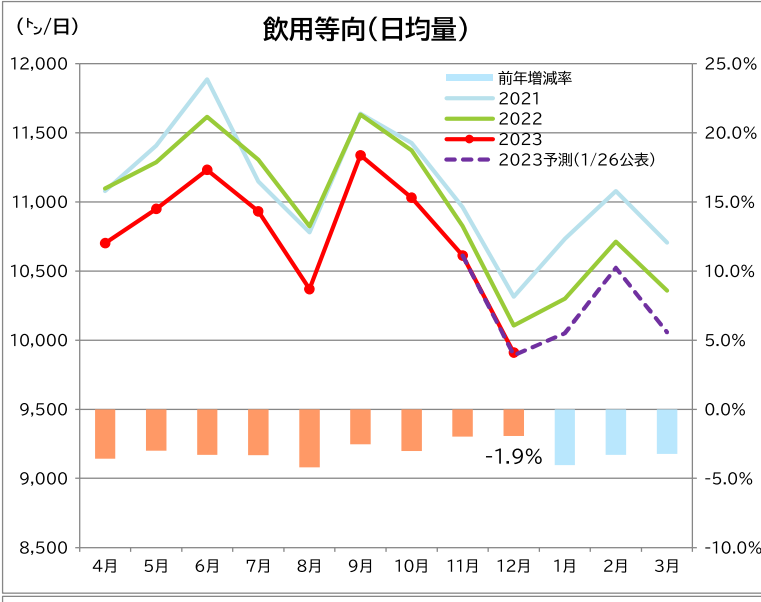
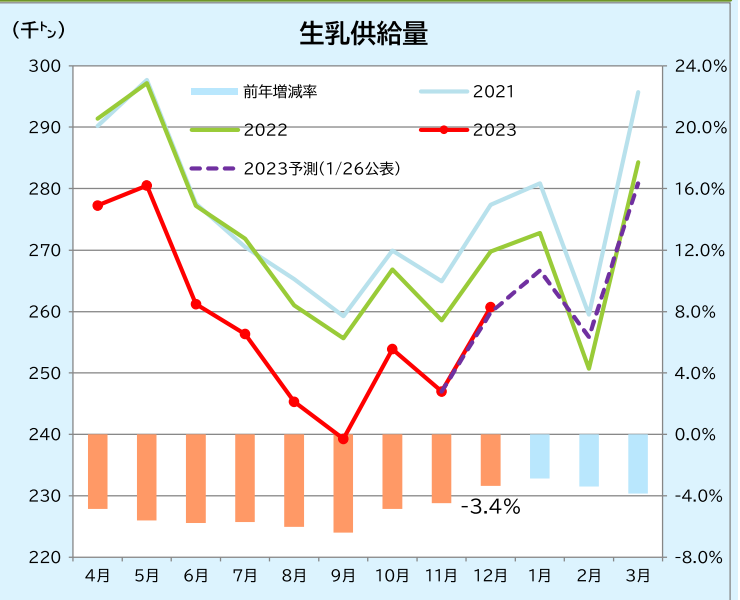
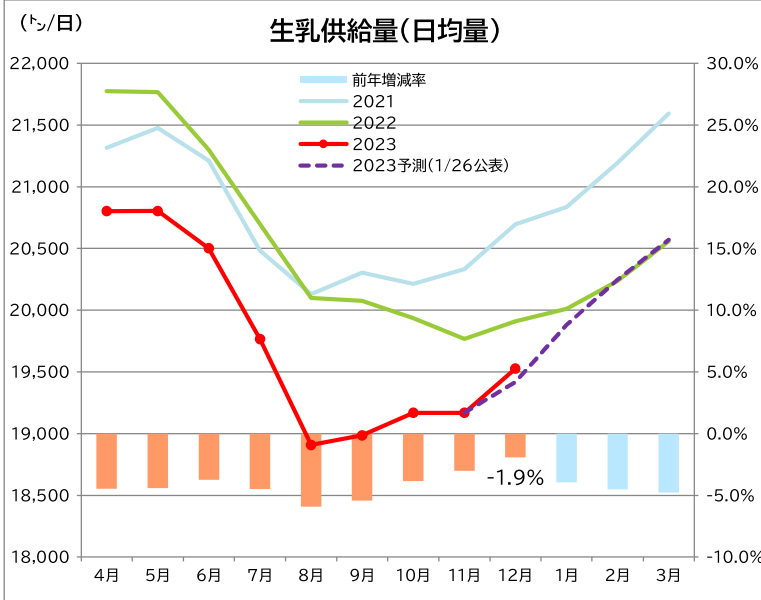


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の生乳供給量は605.3千ト(前年同月比98.1%)、飲用等向307.2千ト(同98.1%)、乳製品向(認定ベース)298.1千ト(同98.1%)。
 (2)飲用等向、生乳供給量ともに前年を下回ったが、生乳供給量の減少量の方が大きく、乳製品向は前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:601.9千ト)は上振れ、飲用等向(予測値:306.6千ト)は予測値水準となり、結果乳製品向(予測値:295.3千ト)は上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)12月は、生乳供給量260.7千ト(前年同月比96.6%)、牛乳等向259.9千ト(同98.2%)。
 (2)北海道からの移入量については、35.4千ト(同100.6%)と前年並みとなった。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:259.8千ト)、牛乳等向(予測値:260.7千ト)ともに予測値水準となったことから、北海道からの移入量(予測値:35.6千ト)も概ね予測値通りとなった。



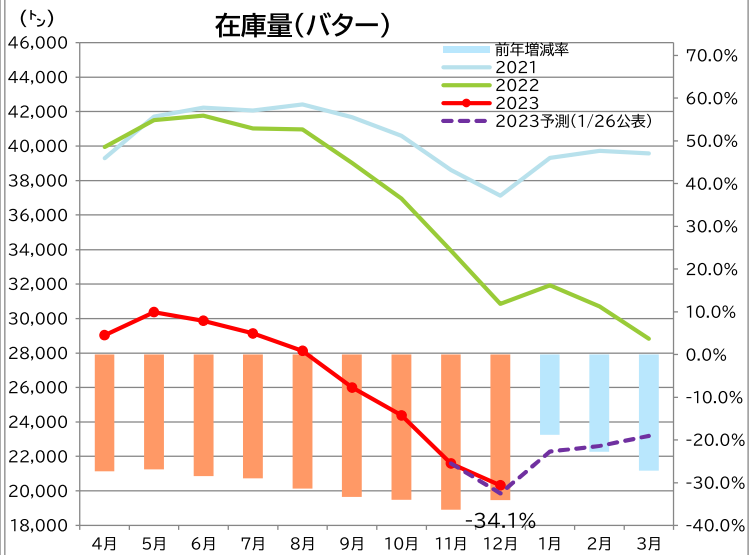
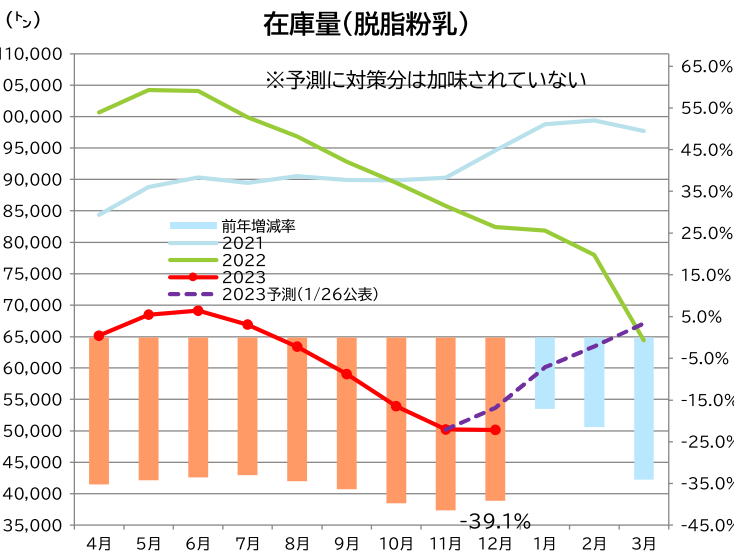
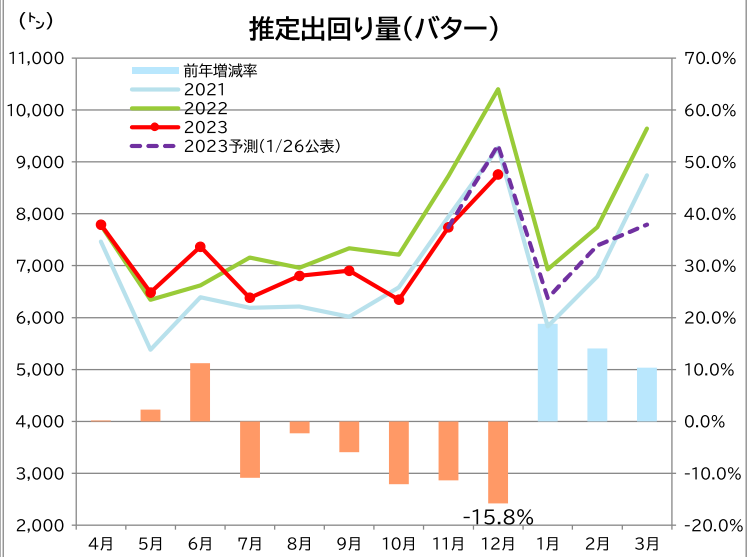
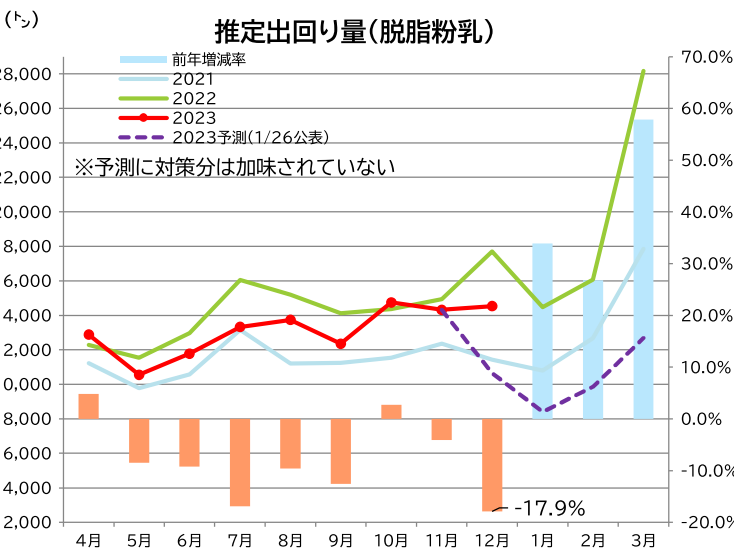
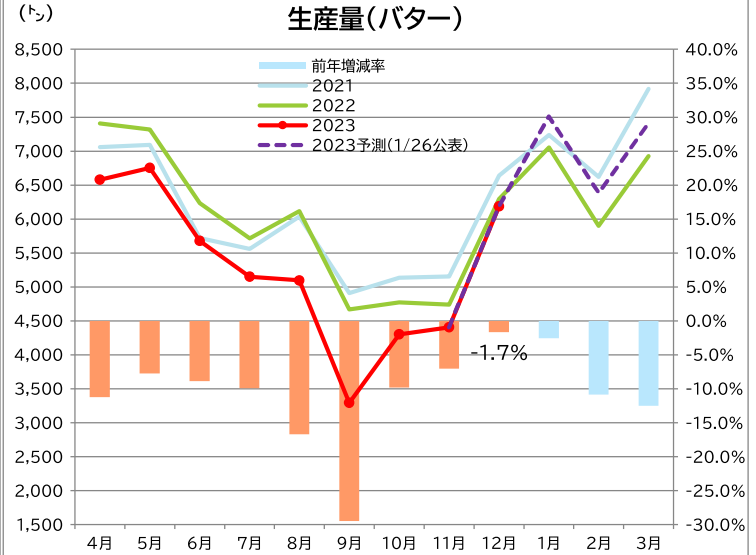
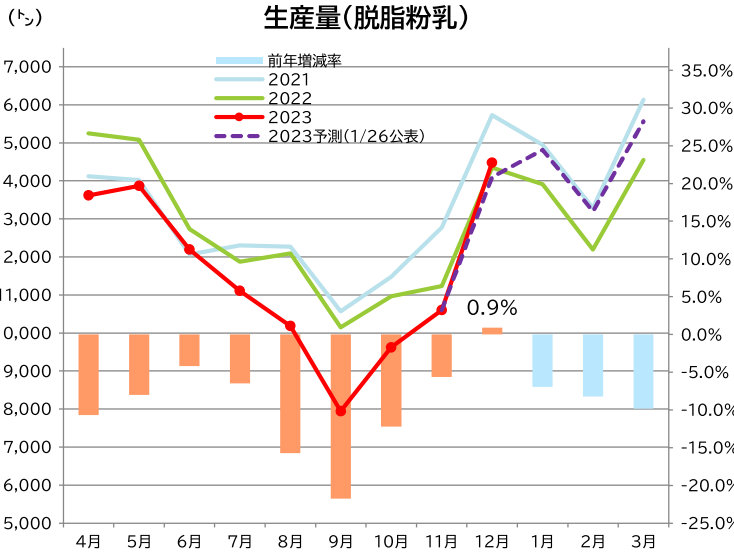
【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳について、12月の生産量は14,5千ト(前年同月比100.9%)、推定出回り量は14,5千ト(同82.1%)となった。生産量と出回り量が均衡したため、在庫量は前月同水準の50,2千ト(同60.9%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱パ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には2018年11月以来、約5年振りに5万ト台となり、4ヶ月連続で維持している。

※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、12月の生産量は6,2千ト(同98.3%)、推定出回り量は8,8千ト(同84.2%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.3千ト(12月))を考慮しても、出回り量が生産量を回っていることから、在庫量は前月よりも1.3千ト減少し、20,3千ト(同65.9%)となった。在庫量は20ヶ月連続で前年を下回っている。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、冬期に向けて飲用需要が減少、生産量が増加することにより脱パ等の仕向量は増加する。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限取り進める必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)1月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比96.6%、成分調整牛乳:同82.7%、加工乳:同103.8%、乳飲料:同96.7%。牛乳類全体:同95.7%

【参考】2022年1月比…牛乳:89.1%、成分調整牛乳:74.1%、加工乳:99.0%、乳飲料:99.1%(牛乳類トータル:89.5%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(1/29週)の販売個数は、牛乳:前年同期比97.6%、成分調整牛乳:同85.5%、加工乳:同99.6%、乳飲料:同97.8%。牛乳類トータルでは同96.8%

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

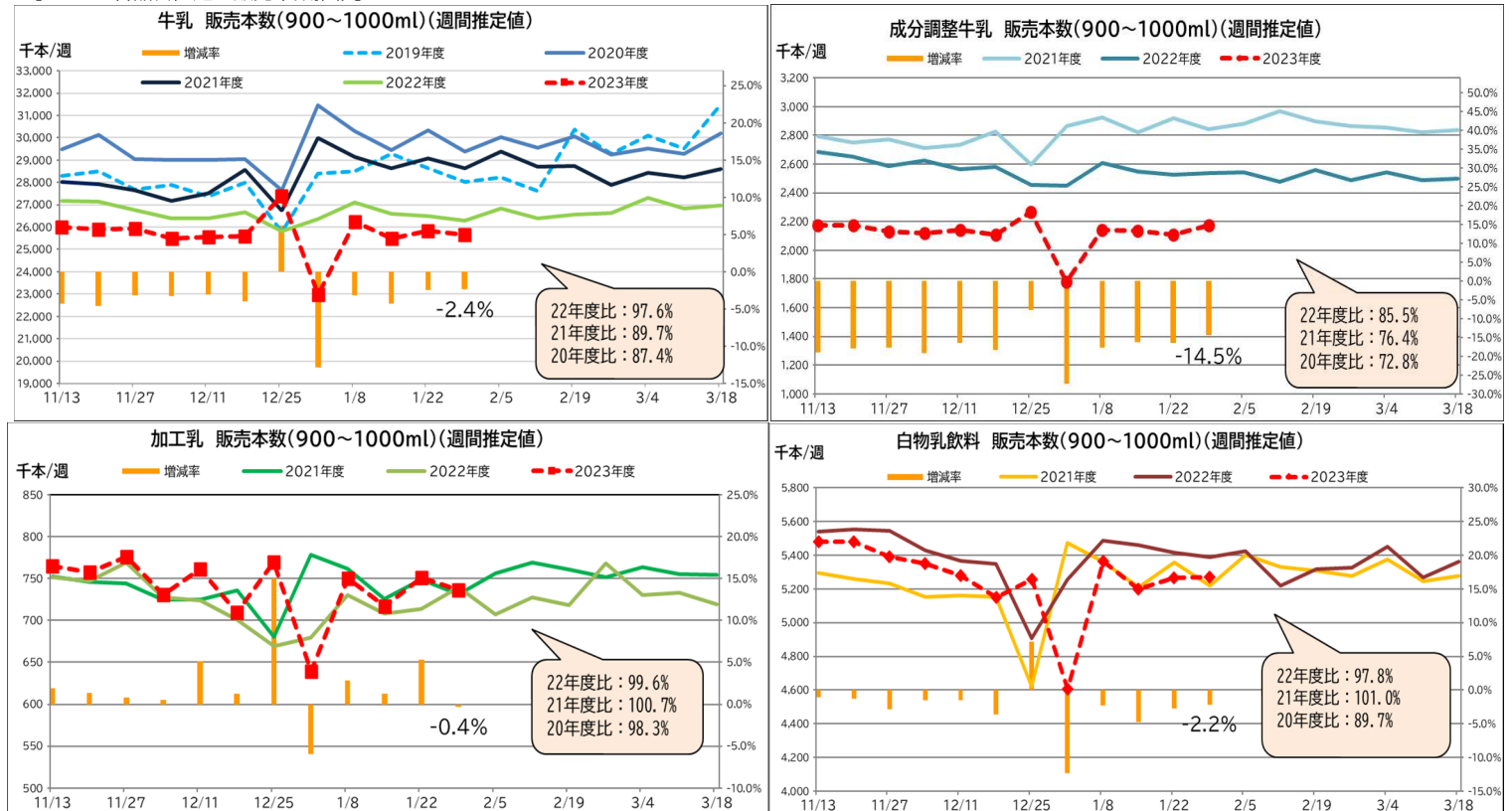
単位:千個、円

品目	区分	2023/8-	2023/9-	2023/10-	2023/11-	2023/12-	2024/1-	2024/1- 2022/10価格差	2024/1- 2023/3価格差	2024/1- 2023/7価格差
		販売個数	176,857	170,015	163,442	148,761	152,434	145,857		
トータル	販売個数前年比	94.8	97.1	95.8	96.0	96.7	95.7	33.9	18.8	17.0
	販売単価	215.3	217.1	216.6	216.7	216.9	217.0			
牛乳	販売個数	134,379	128,266	123,258	112,222	116,060	111,001			
	販売個数前年比	94.1	96.4	95.1	96.4	96.9	96.6	36.3	20.0	19.2
成分調整牛乳	販売個数	11,504	10,913	10,417	9,441	9,602	9,065			
	販売個数前年比	83.6	81.8	80.7	81.7	82.5	82.7	35.2	19.5	16.0
加工乳	販売個数	3,555	3,593	3,652	3,297	3,333	3,178			
	販売個数前年比	94.6	100.1	105.3	102.8	102.6	103.8	28.1	18.4	7.4
乳飲料	販売個数	27,419	27,243	26,115	23,801	23,439	22,613			
	販売個数前年比	104.3	108.1	106.0	100.2	97.6	96.7	24.0	13.4	9.7
	販売単価	172.8	173.7	173.5	173.6	174.3	173.5			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	12.11-	12.18-	12.25-	1.1-	1.8-	1.15-	1.22-	1.29-	24.1.29- 22.10.24 価格差	24.1.29- 23.3.20 価格差	24.1.29- 23.7.24 価格差
		販売個数	33,751	33,569	35,700	30,002	34,510	33,536	33,965	33,845		
トータル	販売個数前年比	96.3	95.1	105.5	86.3	96.0	94.9	96.7	96.8	33.3	18.4	16.0
	販売単価	216.5	217.1	218.1	217.8	217.0	216.6	216.7	216.5			
牛乳	販売個数	25,569	25,603	27,408	22,976	26,253	25,481	25,836	25,666			
	販売個数前年比	96.9	96.0	106.2	87.2	96.8	95.8	97.6	97.6	35.8	19.5	18.3
成分調整牛乳	販売個数	2,140	2,106	2,267	1,779	2,143	2,137	2,111	2,172			
	販売個数前年比	83.4	81.7	92.3	72.6	82.2	83.8	83.5	85.5	33.7	18.8	14.2
加工乳	販売個数	761	709	769	639	750	717	751	736			
	販売個数前年比	105.2	101.2	114.9	94.0	102.8	101.3	105.3	99.6	28.1	17.8	7.2
乳飲料	販売個数	5,281	5,151	5,257	4,608	5,364	5,200	5,267	5,271			
	販売個数前年比	98.4	96.3	107.2	87.7	97.7	95.2	97.3	97.8	23.7	13.9	9.2
	販売単価	174.2	174.4	175.2	173.5	173.9	173.4	173.7	173.4			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向

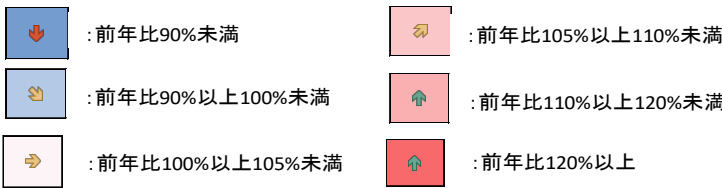
直近(1/29週)の販売個数は、ドリンクタイプ前年同期比90%未満、個食タイプ同90%以上、大容量タイプ同90%以上。

(2)販売個数について、前週(1/22週)と比較して、ドリンクタイプは横ばい、個食タイプと大容量タイプはやや増加した。はっ酵乳全体としては、引き続き前年を下回る推移となっている。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

単位:千個

品目	12.11-	12.18-	12.25-	1.1-	1.8-	1.15-	1.22-	1.29-
ドリンクタイプ	👇	👇	👇	👇	👇	👇	👇	👇
個食タイプ	👇	👇	➡	👇	👇	👇	👇	👇
大容量タイプ	👇	👇	↗	👇	👇	👇	👇	👇



※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

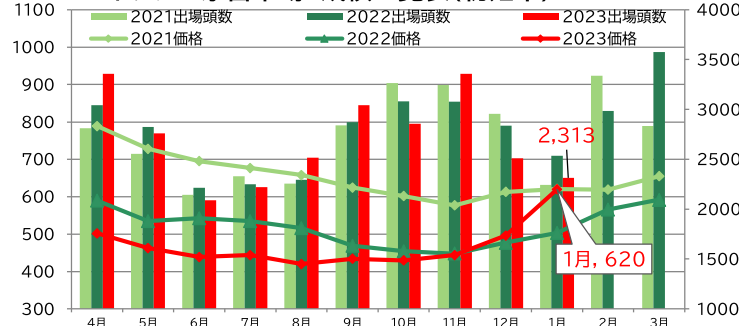
【家畜販売価格動向(税込)】

(1)1月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は620千円(前年同期比123.3%)、育成牛価格は354千円(同150.0%)、和牛素牛(去勢)価格は681千円(同96.2%)、F1素牛(去勢)価格は375千円(同91.0%)、F1初生(雄)価格は69千円(同90.4%)。初妊牛2ヶ月振りに60万円台となり、育成牛についても2ヶ月振りに30万円台となった。F1初生(雄)は6ヶ月連続で10万円を下回った。ホル初生(雄)価格は41千円(同210.9%)となった(グラフ無し)。

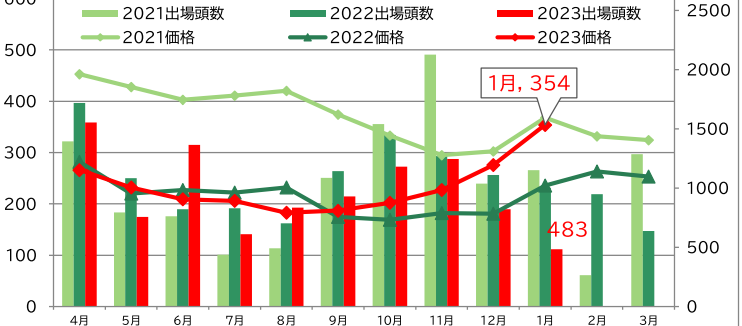
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同91.3%、育成牛:同48.1%、和牛素牛(去勢):同91.3%、F1素牛(去勢):同120.2%、F1初生(雄):同109.5%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

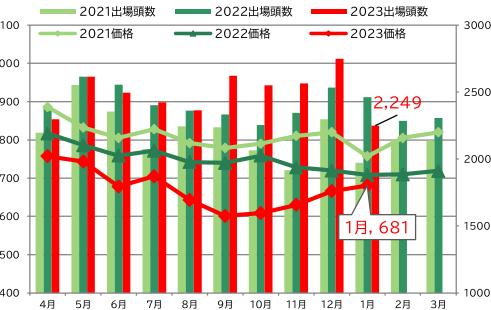
ホクレン家畜市場 成績一覧表(初妊牛)



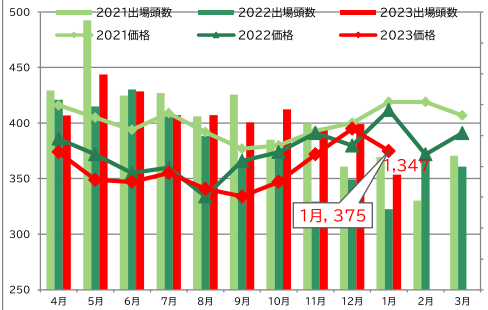
ホクレン家畜市場 成績一覧表(育成牛)



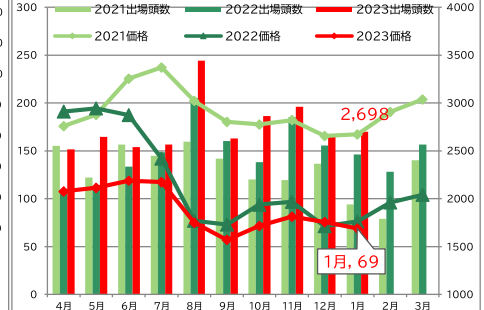
ホクレン家畜市場 成績一覧表(黒毛素牛 去勢)



ホクレン家畜市場 成績一覧表(F1素牛 去勢)

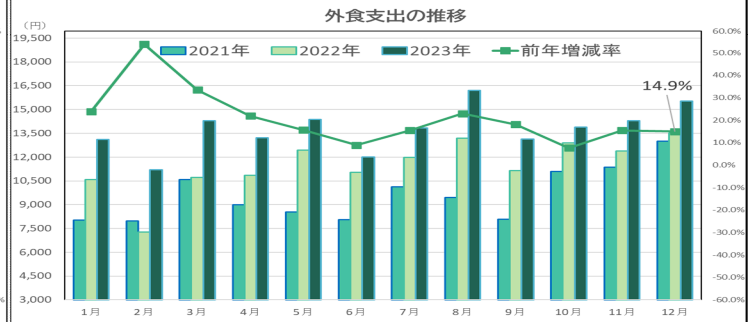
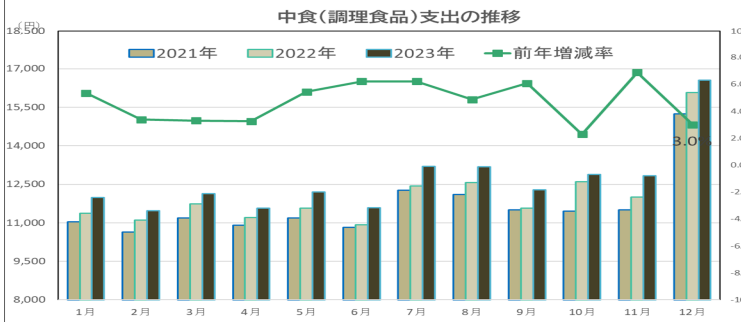
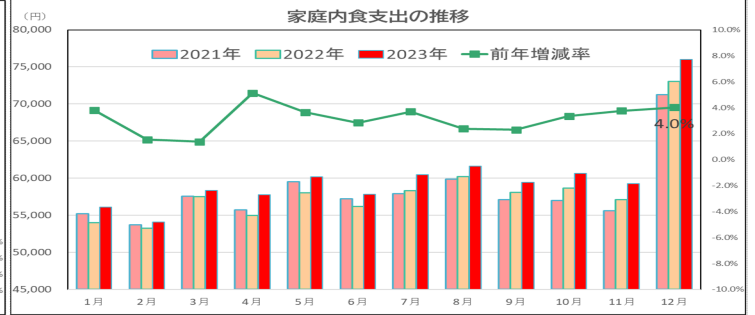
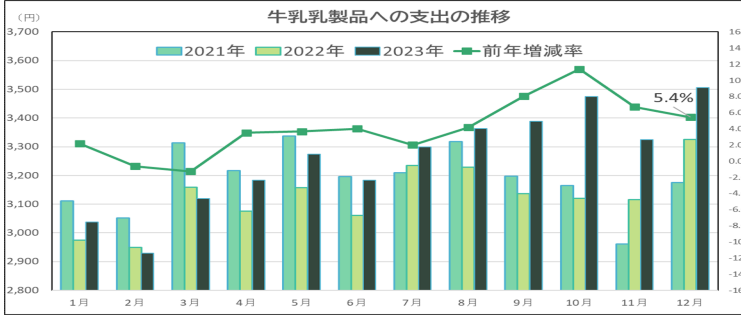


ホクレン家畜市場 成績一覧表(初生とく F1雄)

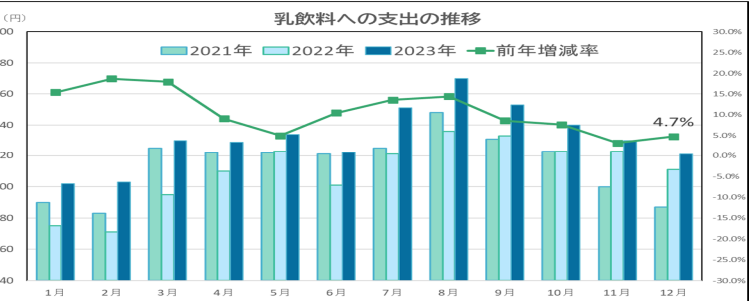
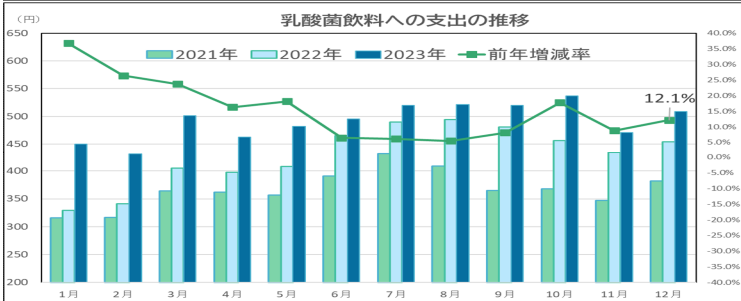
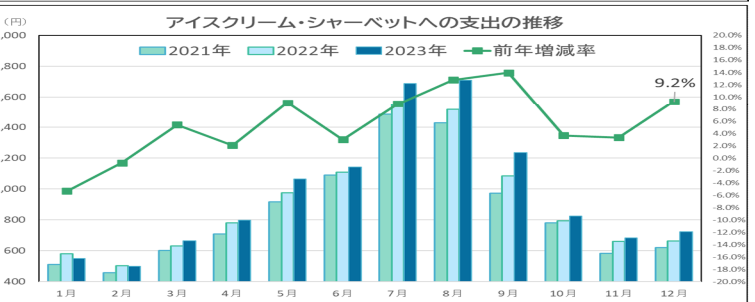
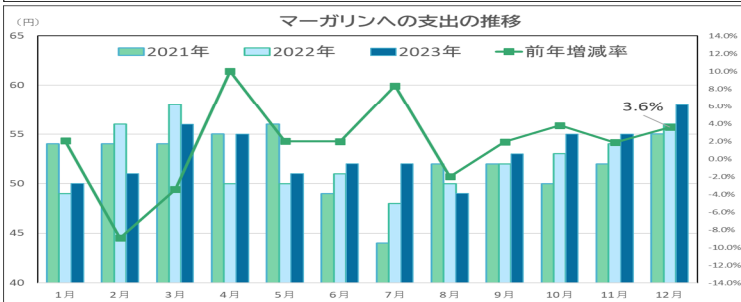
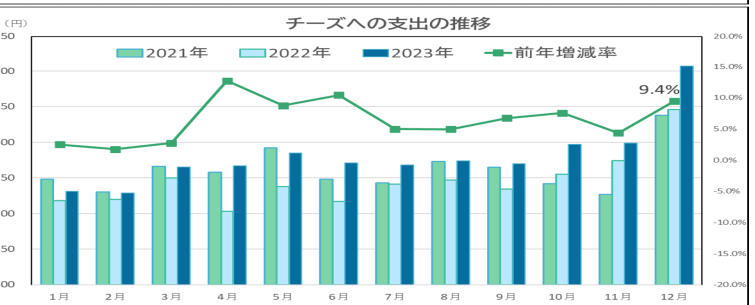
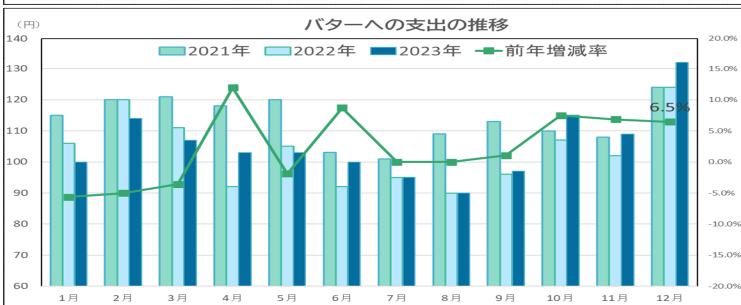
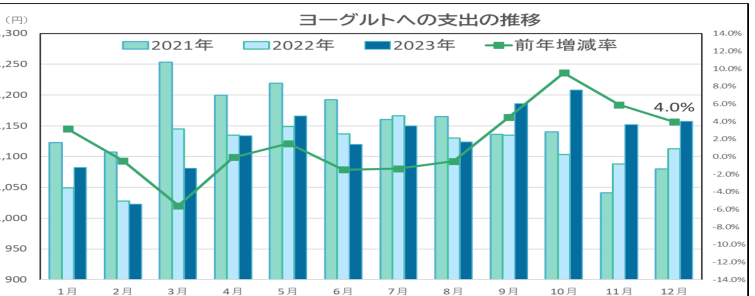
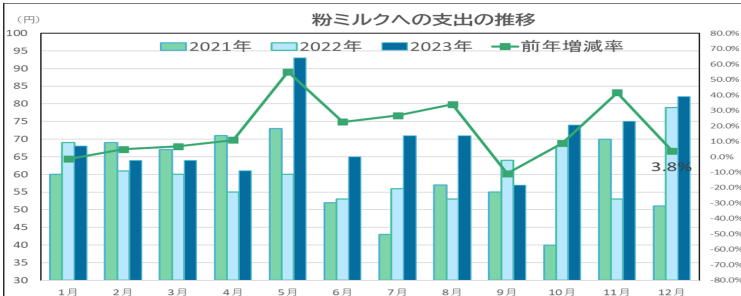


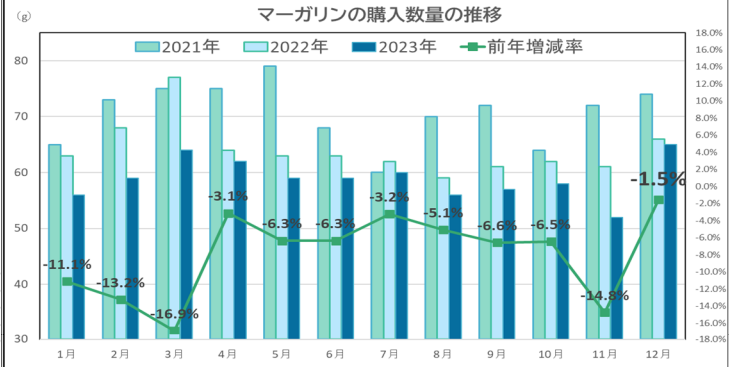
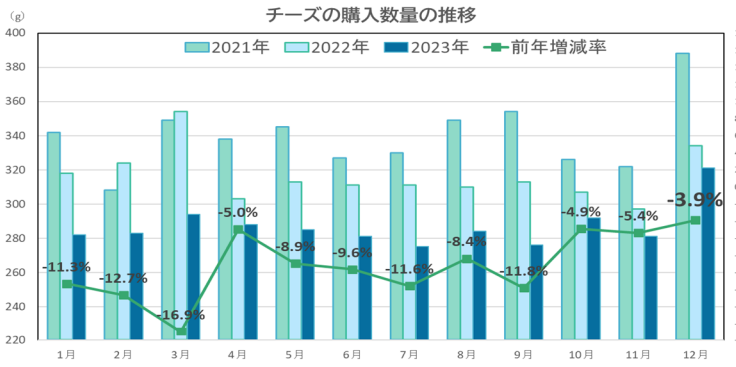
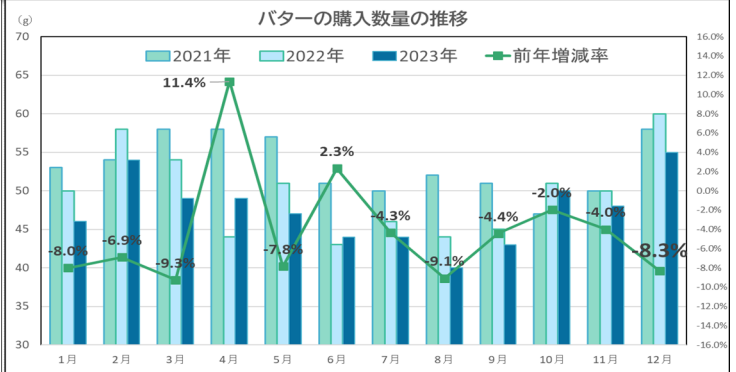
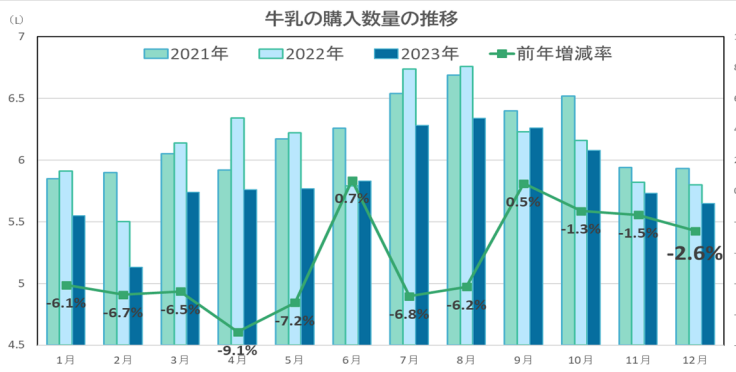
【家計支出の動向】

- (1)12月の支出額前年比について、外食114.9%、中食103.0%、内食104.0%と前年を上回り、食料全体への支出額は105.3%となった。
 - (2)牛乳乳製品の支出額については、前年を大きく上回った。(牛乳乳製品全体前年比:105.4%、(うち牛乳104.3%、乳製品106.2%))
 - (3)なお、購入量は、牛乳97.4%(1世帯当たり5.65L)と3ヶ月連続で前年を下回った。バター、チーズ、マーガリンについても前年を下回る結果となった。
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】





【乳製品輸出価格の動向】

(1) 直近の乳製品国際相場について(2月上旬)

- ・欧州: 脱脂粉乳2,750ドル/ト、バター5,850ドル/ト中心
- ・オセアニア: 脱脂粉乳2,650ドル/ト、バター5,950ドル/ト、チェダーチーズは4,200ドル/ト中心

※出典: 米国農務省(USDA)

